

大阪府議会「大阪市廃止協定書」採決

昨日 28 日午後、大阪府議会本会議を初めて傍聴した。先着順ということで、早めに並んだ。3 階までの階段を上がり、傍聴室の最前列に陣取った。府議会議席図を見て、あらためて大阪維新の会の「勢力」を実感した。

第 1 号議案「特別区設置協定書について承認を求める件」について、維新の横山議員が賛成の立場から発言した。横山議員は淀川区選出であり、傍聴してきた法定協議会でも、維新の議論を先導する役割を果たしていた。

「二重行政」解消などから特別区設置を求めると発言したが、災害対策やまちづくりなど淀川区民、「新淀川区」民にたいして、府議会議員としてどう説明するのか。



次に、公明党の三宅議員が自党の提案が受け入れられたと、協定書への承認を求めた。なぜ総合区を取り下げ、反対から賛成に転じたか、説明責任を果たさないままの無責任な発言だった。自民党は発言せず、少数会派には発言議会は与えられなかった。

議場閉鎖のあと、記名投票に移った。議員の賛否を明確にして記録に残すため、記名投票になったという。投票する議員の態度をじっくり見つめた。白票（承認）を投ずる維新の議員とともに、マスコミによく登場する自民の議員が、白票を持って吉村知事に深々と頭を下げていたのが印象的だった。開票の結果は、86 人出席で白票（可）71、青票（否）15 で、協定書は承認された。自民党のなかで、反対に回った議員が一定数いたことを示すものだ。傍聴席から、「抗議」の声があがった。

これで大阪府議会は大阪市廃止の協定書を承認したわけで、9 月 3 日の大阪市議会に舞台は移る。これまでも「大阪都」構想なるものは、大阪府による大阪市の乗っ取りだと主張してきたが、大阪府議会で採決の現場を眺めていて、その思いをますます強くした。大阪市の権限や財源だけではなく、多くの施設や資産も奪ってしまう。

なんだか心身ともに不調になったが、府庁前的大阪市民交流会の集会に参加した。たくさんの幟を眺め、発言に耳を傾けるなかで、心身とも上り調子になってきた。負けてはおられない。決して、あきらめない。そんな時、安倍首相「辞任」のニュースが流れてきた。



まずは 9 月 3 日の大阪市議会本会議での採決に向け、そして住民投票に向けて全力を傾けたい。コロナ危機のもと、このまま住民投票に突き進んでいいのか。維新の横暴を許していいのか。なんとか住民投票を阻止する手立て、法的手続きはないのか。弁護士の皆さんらとの協議を振り返りながら、猛暑の会場を離れた。

(2020 年 8 月 29 日)